

ODC分析研究会 第6期 活動報告会

オープニング

2025年3月14日(金)

株式会社ベリサーブ

山崎 崇

ODC分析研究会の方針について (出典: [ODC会則](#)より)

理念

欠陥分析がものづくりの品質向上に寄与するものと信じて、その研究成果がものづくりにたずさわる企業や組織に対して、社会貢献することを目指します。

設立趣意

日本の高い品質のものづくり文化を根底から支える品質管理や品質保証の分野において、検証結果の欠陥分析は重要な技術テーマです。旧来より品質管理において「欠陥」は、除去する対象だけでなく、品質の向上を実現する種として重要視されています。しかし欠陥分析は、日本の企業群や組織でさまざまな取り組みが行われている結果、統一された分析技法の定着を阻害しています。分析技法が標準化されていないことで、「欠陥」そのものでなく欠陥の除去技術や製品の品質評価方法などが組織の壁を越えて議論され難くなっています。

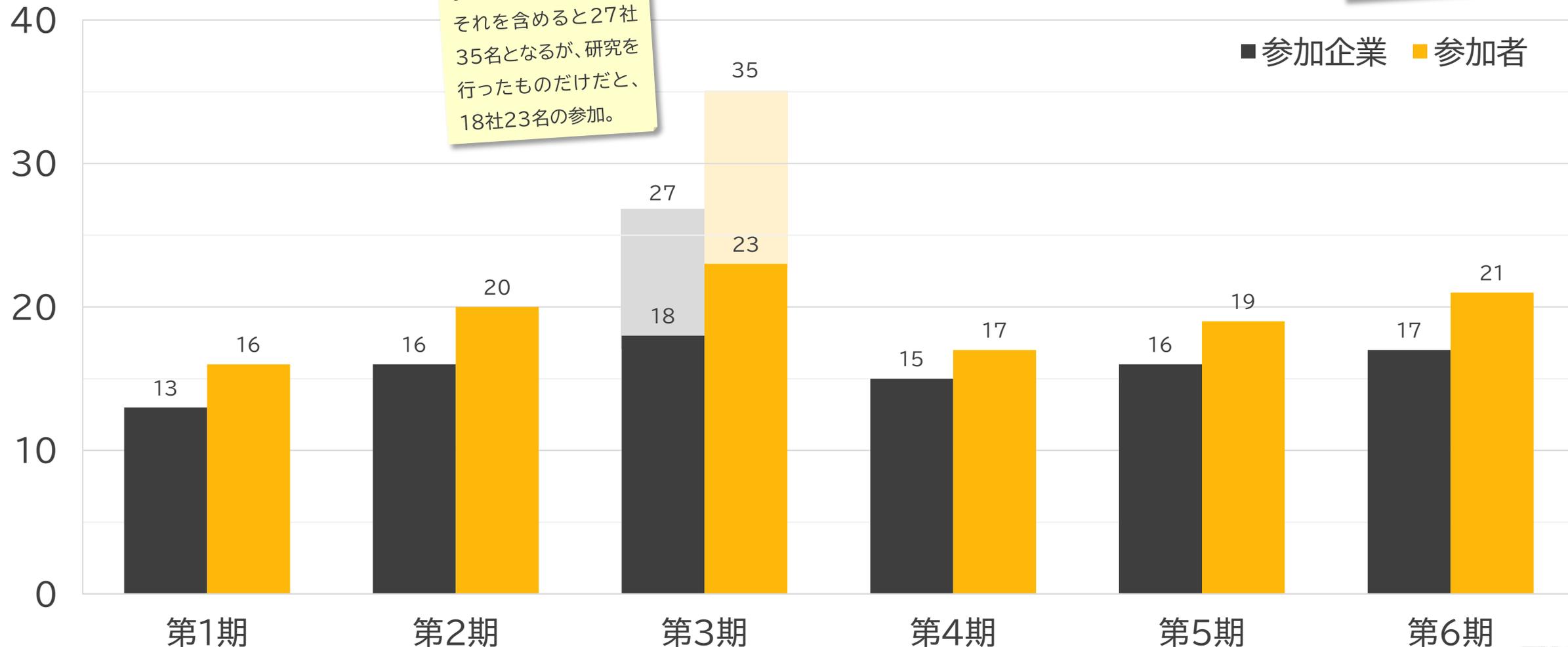
これらを解決するためには、欠陥分析に関係する用語や欠陥を分類する属性を統一し、共通の言語で品質を語るができる場を提供することが必要です。

ODC分析研究会は、企業や組織の枠組みを超えて欠陥分析の議論や研究を行うことで、ものづくりを行う企業に寄与するために設立します。

ODC分析研究会の■参加企業/■参加者の推移

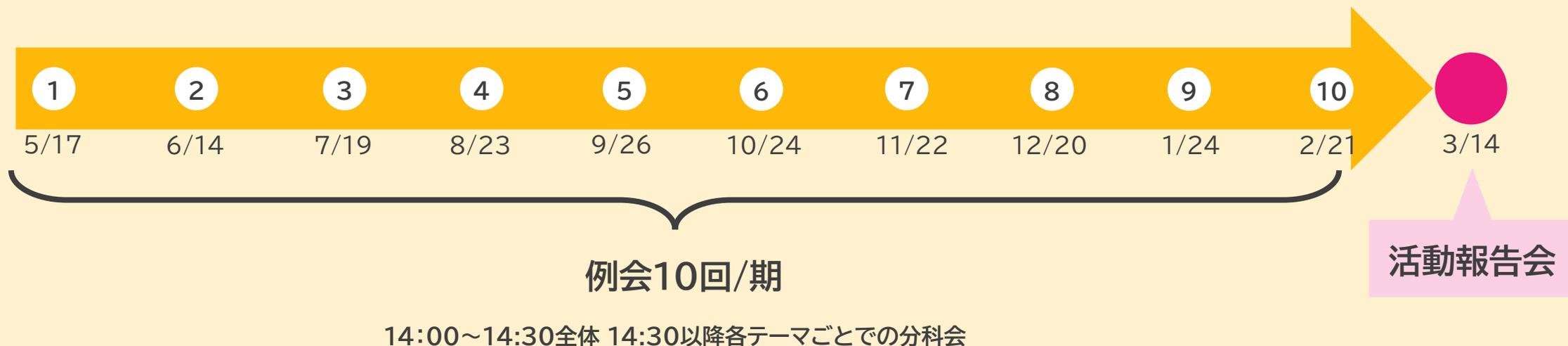
第1期から第6期まで、
安定的に約15社20名
前後の方々に、本研究会
にご参加いただいで
いる状況。

なお、第3期は特別講
義のみの参加もあり、
それを含めると27社
35名となるが、研究を
行ったものだけだと、
18社23名の参加。



第6期のスケジュールと実施方法

スケジュール



実施方法

オンラインとオンサイトの
ハイブリッド会議



研究テーマ

内容

研究テーマ1

ODC分析から最適な既存のプロセス改善手法を選択し組み合わせる研究

研究テーマ2

ODC分析導入事例研究

研究テーマ3

レビュー結果にODC分析を適用する研究

特別テーマ

ODC分析を自立して実践できる技術者育成コンテンツに対する有効性の実証実験

研究テーマ

内容

研究テーマ1

ODC分析から最適な既存のプロセス改善手法を選択し組み合わせる研究

研究テーマ2

ODC分析導入事例研究

研究テーマ3

レビュー結果にODC分析を適用する研究

特別テーマ

ODC分析を自立して実践できる技術者育成コンテンツに対する有効性の実証実験

第6期の特徴 — 特別テーマ

技術者育成コンテンツの実証実験

テーマ	ODC分析を自立して実践できる技術者育成コンテンツに対する有効性の実証実験
研究概要	研究会として策定した「ODC分析を自立して実践できる技術者育成コンテンツ」をもとに教育コース化し、参加者自身の実プロジェクトへのODC分析実践を側面から研究として本教育コース内容を適用して実践教育及び技術支援することで、一般論でなく参加者自組織で実践に活かせるODC分析理論の理解深化と実践技術習得を図る。その過程、結果において適用したコース内容の実効性・有効性を検証することで、本教育コース内容の妥当性評価及び改善を行い「ODC分析実践コース」としての確立を目指す。
主任研究員	杉崎 眞弘 (SUGIシステムズエンジニアリング) 佐々木方規 (株式会社ベリサーブ) その他 ODC分析運営委員、ティーチングアシスタント
参加基準	<p>1) ODC分析の対象となるプロジェクトがあり、ODC分析運営委員会が直接指導することができること。(プロジェクト情報の開示などについては、秘密保持契約の締結も可)</p> <p>2) 1年を通じて本教育コースに参加し、実プロジェクトでのODC分析が実践できること。(実施スケジュールは調整可能)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践トレーニング(実地教育・指導) 8回/年(第6期の期間中) ・特別講義(座学) 2回/年(第6期の期間中 適時) <p>計10回のコース内容に参加できること</p> <p>※本コースの参加費は無料です。 募集後に参加条件や対象プロジェクトなどの確認を行います。(双方の合意の元、採用可否を行ないます)</p>
募集人数	最大5名(プロジェクト)まで。(ただし、プロジェクト内で教育対象となる人数には制限なし)

引用元: https://www.juse.or.jp/sqip/odc_workshop/index.html

第6期はODC分析を自立して実践できる技術者育成コンテンツに対する有効性の実証実験を行います。ODC分析研究会では教育コースの開発を行っており「ソフトウェア不具合改善手法 ODC分析の基礎セミナー」を提供していますが、さらにODC分析を実践する技術者への理解深化・技術向上コンテンツを開発しています。今期は、研究会で検討したODC分析を自立して実践できる技術者育成のコンテンツを利用したODC分析技術者育成コースの実証実験への参加者を募集します。

本テーマへの参加者は、ODC分析のオーソリティやエバンジェリストとの意見交換を踏まえ、ご自身のプロジェクトに対して実際にODC分析を実施することで、ODC分析への理解・技術の深化に加えて、自組織での開発プロセス実施の「やり方」に対する示唆やプロセス改善のためのアプローチ方法について取得することが期待できます。

第6期での成果

SQiPシンポジウム 2024での経験論文採択 及びBest Presentation Awardの受賞

一般発表

A1-1 経験論文

レビュー品質の可視化にむけたODC分析の応用

登壇者
武田 匡広 氏
オリンパスメディカルシステムズ株式会社

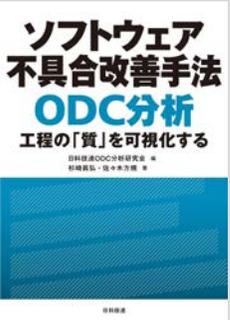
共著
小笠原 栄二 氏 東芝電波テクノロジー株式会社
小泉 真一 氏 アルプスシステムインテグレーション株式会社
玉田 恵子 氏 キヤノンITソリューションズ株式会社
田村 真伸 氏 株式会社コムニク
宮川 真理子 氏 株式会社構造計画研究所

ソフトウェア開発における生産性向上において、上流工程から下流工程への欠陥流出を防止することの重要性はよく知られている。V字モデルを前提としたソフトウェア開発プロセスの場合、基本設計から詳細設計工程が上流工程に相当し、これら工程からの欠陥流出を防止するにはレビューの実施が有効である。すなわち生産性向上のためにはレビュー品質の向上が重要であり、そのためにはレビュー品質の可視化が必要となる。しかしレビューについては「時間あたりの指摘数」や「ページあたりの指摘数」など効率面で定量的に品質を分析することはできても、指摘の内容そのものすなわち「指摘の質」に対する定量的な分析を行うことが難しい。そこで筆者ら研究チームは客観的に指摘の質を評価するのに、ソフトウェア欠陥分析手法の1つであるODC分析を応用できるのではないかと考えた。特にODC分析が用いる分類属性の中でも、その欠陥が検出された経緯に着目する「トリガー属性」を用いてレビューにおける指摘の質を評価できるのではないかと考えた。ただし、ODC分析をレビューに適用した事例はまだなく、レビュー指摘を適切にトリガー属性で分類する手法も確立していない。そこでまずはレビューで得た指摘に対して「適切なトリガーを選択する方法」を確立することにした。今回、実験により適切なトリガーが選択できる事が確認できたので、ここに報告する。



既存のODC分析技術者育成の基礎コンテンツに続く、 ODC分析を自立して実践できる技術者育成コンテンツ

基礎コンテンツ



教科書



トレーニング(2日間)

実践コンテンツ

(講義 + ワークショップ) × 10回

※今後の提供方法は現在検討中

引用元: <https://www.juse.jp/sqip/symposium/2024/detail/day1/#a1-1>

本日のアジェンダ

#	時間	内容		発表者(†運営委員 ††運営委員長)
1	13:30 ~ 13:35	オープニング	ODC分析研究会のご紹介と第6期サマリー	山崎 崇†(ベリサーブ)
2	13:45 ~ 14:30	基調講演	レビュー品質の可視化にむけたODC分析の応用	武田 匡広† (オリンパスメディカルシステムズ)
3	14:45 ~ 15:10	活動報告1	ODC分析から最適な既存のプロセス改善手法を選択し組み合わせる研究/ プロセス改善手法としてのODC分析の活用事例研究	森 龍二†(AGEST)
4	15:10 ~ 15:35	活動報告2	ODC分析導入事例研究	岡本 慎司†(京セラ) 佐藤 淳一(マネックス証券) 鵜飼 竜也(リコー)
5	15:50 ~ 16:15	活動報告3	レビュー結果にODC分析を適用する研究	小笠原 栄二† (東芝電波テクノロジー)
6	16:15 ~ 16:40	活動報告4	ODC分析を自立して実践できる技術者育成コンテンツに対する有効性の 実証実験	杉崎 真弘†(SUGIシステムズ エンジニアリング)
7	16:40 ~ 17:00	クロージング	活動報告会 全体クロージングと第7期サマリーのご紹介	佐々木 方規††(ベリサーブ)

注: 時間は前後場合があります。

ご清聴、ありがとうございました。

オープニングは以上です。

最後まで各発表をご聴講いただけますと幸いです。